

木のまち・木のいえ リレーフォーラム の取組



昨年、公共建築物等木材利用促進法が公布、施行され、国産材利用の気運が高まる中で「木のまち・木のいえリレーフォーラム」では、山とまちの連携の推進、公共建築物等への木材利用を具体的にどのように取り組むかなどをテーマとして、様々な議論が交わされています。

リレーフォーラムは、平成21年度に全国6箇所で開催されたのに引き続き、平成22年度もこれまで全国5カ所で開催され、スタートから11箇所をつないできました。



平成22年度のスタートとなる第7回リレーフォーラムは、5月8日に千葉県浦安市の木材市場で約450名の参加者を集め開催されました。木材関係者が建築関係者を木材市場に招く形で行われました。テーマは、「樹」に触れ・・・新たな「創造」の種を・・・。パネルディスカッションでは、木造設計に携わる上で必要な木材の知識や関係者の交流の重要性、伝統的な構法の知識の普及方法、クレーン対応などについて議論が交わされました。

また、林場（市場）で木材製品が並んでいる場所では、各産地の製材工

場から製品の紹介などもなされ、参加した建築関係者に国産材を「見て」、「触れる」機会が提供されました。



第8回は、9月18日に広島市で「木造先進都市・広島を目指して」と題して開催されました。中国地方では初開催となり、約370名が参加。リフォーム、インテリア面でいかに木材利用を進めていくかということを中心としたフォーラムになりました。循環型社会を形成していく上での木材利用の必要性のほか、多くのインテリアコーディネーターが参加したこともあり、木材という材料に知見の少ない住宅・インテリア関係者にその良さを伝えることの重要性に議論が集中しました。



第9回は、11月18日に山形市で開催されました。公共建築物等木材利用促進法が10月1日に施行されて最初のリレーフォーラム。「山形から発信！木造建築の未来」と題して、木材



リレーフォーラムの様子(大阪会場)

利用の積極的な推進に向け、発注者、建築関係者、森林・木材関係者等約220名が集まりました。
木造の学校や商業施設の事例が紹介されるとともに、パネルディスカッションでは、木材利用を推進するためのデータの充実の必要性、市場の要求に応える製材側の乾燥体制整備の取組、木造に精通した人材の育成、木材の調達方法と発注の課題などについて議論を深めました。

第11回は、今年1月21日に高知市で約230名の参加者を集めて開催されました。「発信！(84%)山・まち・こうち」と題して、森林率84%と日本一を誇る高知県から何を発信するかを



間伐材を活用した耐震補強システムなどの新規需要案を発信するとともに、パネルディスカッションが行われました。この中では、木造保育所など木材利用の取組が発表されたほか、ユーザーの目が地域材利用に向くよう、木材の品質・性能の明確化やニーズの把握の必要性、製材業者、流通業者、大手住宅メーカー等関係者間の連携の必要性などが議論されました。



第10回は、12月8日に大阪市で開催。近畿地方で初開催となるこの回は、「大阪から発信！ 木材の新しい需要開発と流通改革」地域材の利用を推進し、木の文化、森林の再生を目指して、「」と題して約650名が集まりました。

積極的なご参加をお願いします

今年度最後のリレーフォーラムは、3月26日、福岡市で開催されます。九州初の開催となる第12回は、都市でいかに木材を使っていくかについて議論を行う予定です。お近くの方は積極的なご参加をお願いします。

第12回リレーフォーラム

「木のまち・木のいえリレーフォーラム イン ふくおか」

日時：平成23年3月26日(土)13:00~17:00
場所：福岡国際会議場
(福岡県福岡市博多区石城町2-1)
定員：600名

リレーフォーラムを含む様々な取組は、下記のホームページで紹介していますのでご覧ください。

HPアドレス
<http://www.kinomachikinoie.jp/>

議題とし、パネルディスカッションのほか尾崎知事も自ら県の取組を紹介するなど多彩な内容となりました。
パネルディスカッションでは、学識経験者に加え、県下の森林組合や地域の工務店関係者なども参加し、山側と地域の工務店が連携し、県産材のアピールや価格を安定させる方法、地域の特性を踏まえた正確な情報伝達などについて議論を行いました。



尾崎高知県知事



高知県の取組を紹介